

市制施行から50年間の歩み (略年表)



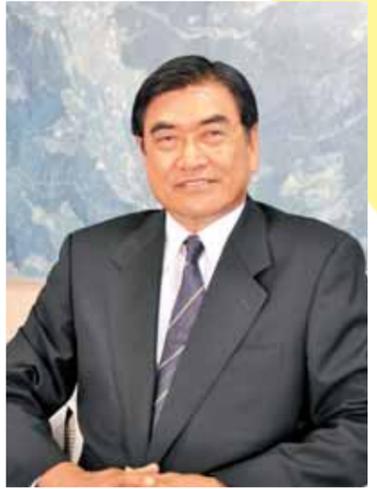
市制施行記念支所訪問駅伝 (昭和30年4月30日)



第59回市内駅伝競走大会 (平成25年9月22日)

- 昭和29年 (1954年) ~ 昭和38年 (1963年)
 - 1町8ヶ村合併し市制施行 (S29)
 - 初の市議会議員選挙実施 (S30)
 - 雁が原スキー場オープン (S31)
 - 財政再建団体の指定 (S31)
 - 勝山北部中学校開校 (S32)
 - 新市庁舎落成 (S33)
 - 伊勢湾台風猛威 (S34)
 - 市消防本部、市消防署設置 (S36)
 - 第2室戸台風 (S36)
 - 市有林100万本植樹完了 (S37)
 - 白山国定公園が国立公園に昇格 (S37)
 - 電話自動化 (S37)
 - 38豪雪 (S38)
 - 勝山橋架け替え工事完成 (S38)
 - 勝山総合病院移転完成 (S38)
 - 農業構造改善事業計画地域としての指定および低開発地域工業開発地区の指定 (S38)
 - 市議会議員の選挙を大選挙区制に変更を決議 (S38)
- 昭和39年 (1964年) ~ 昭和48年 (1973年)
 - 新大用水完成 (S39)
 - 40.9三天風水害 (S40)
 - 交通安全都市宣言および青少年愛護都市宣言 (S41)
 - 新住居表示実施 (S41)
 - 勝山中中部中学校校舎完成 (S42)
 - 市民会館落成 (S42)
 - 第23回国民体育大会 (S43)
 - 2回目の財政再建団体の指定 (S43)
 - 市荒川大橋完成 (S43)
 - 下荒井トンネル・下荒井橋完成 (S44)
 - 万国博覧会に左義長まつりが郷土芸能として参加 (S45)
 - 勤労青少年体育センター完成 (S46)
 - ニクソンショック (S46)
 - 三室小学校本館落成 (S47)
 - 国道157号新「谷トネル」開通 (S47)
 - 第1次オイルショック (S48)
- 昭和49年 (1974年) ~ 昭和58年 (1983年)
 - 勝山南部中学校開校 (S49)
 - 財政再建計画5年短縮して完了 (S50)
 - 成器西小学校が勝山中学校跡へ移転 (S50)
 - 教育福祉会館落成 (S51)
 - 名誉市民に多田清氏 (S51)
 - 多田育英基金設立 (S51)
 - 勝山中中部中学校の浄土寺川清掃始まる (S52)
 - 勝山・上志比衛生センター完成 (S53)
 - 中央公園完成 (S53)
 - 第2次オイルショック (S54)
 - 国道157号谷峠付近開通 (S54)
 - 国道157号暮見トンネル開通 (S55)
 - 東山いこいの森完成 (S55)
 - 56豪雪 (S56)
 - 勤労婦人センター完成 (S58)
 - B&G財団勝山海洋センター完成 (S58)
 - 林業者健康トレーニングセンター完成 (S58)
- 昭和59年 (1984年) ~ 平成5年 (1993年)
 - 市の木「スギ」、市の花「サツキ」を制定 (S59)
 - 野向小学校校舎完成 (S59)
 - 国道157号長山トンネル開通 (S59)
 - 市民栄誉賞に三屋裕子氏、長谷川博幸氏 (S59)
 - 荒土小学校校舎完成 (S60)
 - 日本の道100選に「中宮平泉寺参道」 (S61)
 - 越前大仏開眼・落慶 (S62)
 - 北谷町杉山で1億2千万年前の肉食恐竜の化石発見 (S63)
 - 北谷町杉山で複数恐竜の歩行跡発見 (H2)
 - 温泉センター水芭蕉落成 (H2)
 - 消防庁舎落成 (H3)
 - 市立図書館落成 (H3)
 - 越前勝山城博物館落成 (H4)
 - 北谷町杉山で恐竜の連続歩行足跡化石発見 (H4)
 - 勝山南大橋開通 (H5)
 - スキージャム勝山オープン (H5)
- 平成6年 (1994年) ~ 平成15年 (2003年)
 - 平成勝山十景選定 (H6)
 - 阪神淡路大震災、勝山市からも救援物資輸送、給水職員、消防緊急援助隊派遣 (H7)
 - 国内初、恐竜の「皮膚痕」発見 (H7)
 - 白山禅定道が文化庁の「歴史の道百選」に選ばれる (H8)
 - ナホトカ号重油流出事故、救援物資輸送、応援職員派遣 (H9)
 - 福井社会保険病院移転開業 (H11)
 - 勝山市ふれあい交流館「勝山ニユーホテル」オープン (H11)
 - 新勝山橋完成 (H12)
 - 福井県立恐竜博物館オープン (H12)
 - 恐竜エキスポふくい2000開催 (H12)
 - 火葬場「和みの杜」落成 (H13)
 - 「かちやまワッショイ」スタート (H14)
 - 「岩屋オートキャンプ場」完成 (H15)
 - 「えちぜん鉄道」勝山〜永平寺口間運行開始 (H15)

勝山市制施行60周年に寄せて



ごあいさつ

勝山市長
山岸正裕

本年9月1日に勝山市は市制施行60周年を迎えます。この節目の年を迎えられることに市民と共に感謝し、お祝いを申し上げます。

昭和29年9月1日に、旧勝山町を中心とした1町8ヶ村が大同団結して合併し、勝山市が誕生してから60年が経過し、本年還暦を迎えました。

勝山市が誕生した当時は、戦後の混乱期から昭和の高度成長期へ向かう、まさに助走体制に入った時期で、日本全体に将来への夢と希望がみなぎっていました。その後、現在まで日本は世界に冠たる経済大国として成長してきました。

勝山市も繊維産業を基軸として経済的發展をとげ、現在では恐竜博物館、はたや記念館ゆめおれ勝山、白山平泉寺、スキージャム勝山、越前大仏、勝山城博物館などの多くの人を惹きつける施設が存在し、毎年多くの観光客が訪れています。

また、日本有数の恐竜化石発掘地であることから市全域が「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」として日本ジオパークに認定されています。九頭竜川の清らかな流れ、美しく雄大な加越国境等の山並み、まちなかにホテルが飛び交い、秋には全国的に激減し

ている赤とんぼの大群が空を舞うなど、身近に豊かで貴重な本物の自然があり、世界的な経済誌「フォーブス」において世界で9番目にクリーンなまちとして紹介されました。

また市長就任以来、市民の皆様と一緒に考えて、展開してきました「ふるさとルネッサンスを理念とした「エコミュージアム構想」に基づくまちづくりは、スタートから3年ごとにステップアップしながら13年目を迎え、これまでに北谷の鯖の熟れ鮭や、野向町のエゴマ、荒土町の炭など、コミュニティビジネスとして地域の活力を生み出したものも多く、今後さらさら各地区の特徴を活かした新たな展開と、市民団体による意欲的な取り組みなど、今後の活動が期待されております。

持続可能な自治体として必須の要件は次世代の育成です。勝山市では、全国でも数少ない全小中学校がユネスコ

スクールに加盟をし、ESD教育を実践しており、ふるさと勝山への愛着と誇りが醸成されてきています。

また、英語教育強化拠点地域として全国18地域のうちの1つに勝山中部中学校とその校下の小学校が指定されました。

このように、次世代の子どもたちに美しく魅力あふれる勝山を遺すべく、また、誰もが住みたくなるまちを目指し「小さくてもキラリと光る誇りと活力に満ちたふるさと勝山」を合言葉に市民の皆様とまい進してまいります。

私も勝山市と同じ誕生日!

織田 佐和子さん
11郡町1丁目11

勝山は私にとっての第2の故郷、大好きなまちです。ゆつたりとした自然と、地道にがんばるかたに囲まれ、あまり物があふれていないところも好きです。

自分がいつの間にか還暦。しかも勝山市と同じ誕生日であることに驚きましたが、また光栄に思います。

これからも一緒に素敵に歳を重ねられたら嬉しいです。

私も勝山市と同じ誕生日!

昭和29年9月1日

山内 真さん
=毛屋町=



誕生日の思い出として、子どもの頃は余り嬉しくなかったのを覚えています。

というのは、自分の誕生日は、楽しかった夏休みが終わった初日という気持ちから、1年で最も嫌な日だったからです。

その後、誕生日が偶然にも市制施行日である事を知ってからは、とても光栄に思っています。

私は、毎年夏になると九頭竜川へ鮎釣りに出掛けるのを楽しみにしており、勝山市が20年後も30年後もずっと、九頭竜川を始め、自然豊かなまちであってほしいと願っています。



お祝いの言葉

勝山市議会議長

倉田 源右衛門

記念すべき、市制60周年を迎えましたことを、市民の皆さまとともに祝福し、喜びを分かち合いたいと思います。

昭和29年9月1日に1町8ヶ村が合併し、福井県下で6番目の市として勝山市が誕生してから、早や60年の歳月が流れました。

この間、社会基盤の整備、市民福祉の充実、教育文化の振興、産業経済の発展等大きく躍進を遂げてまいりました。

この着実な歩みは、その時代の厳しい社会情勢や経済環境の中で、豊かな郷土づくりに邁進され、ご尽力いただいた先輩の方々や市民のみなさま方のご努力の結果であり、改めて、心より敬意と感謝を申し上げます。

市議会といたしましても厳

しい社会情勢の中で、行政と一体となって難局を切り抜けるため活発な活動を展開してまいりました。

社会を取り巻く情勢は大きく変わってきております。人口減少や少子高齢化への対応循環型社会の構築と自然との共生、高度情報化の進展など社会環境の変化が、生活に大きな影響を与えております。

このようなかたにあって、「小さくてもキラリと光る誇りと活力に満ちたふるさと勝山」を目指すべきまちの姿に掲げ、エコミュージアムの推進を基本政策の軸に据えて、市民のみなさまが主役となった、持続可能なコミュニティづくり、特色ある地域づくりとあわせて、環境、福祉、産業、教育など幅広い分野の政策を推進することにより、多様な価値観の魅力にあふれた「選択されるふるさと」、「誰かが住みたくなるまち」の実現を目指しています。

議会といたしましても、これらの施策に全力で取り組んでまいり所存であります。市民のみなさまの、なお一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。



東京勝山会会長
山内 高嘉氏

市制施行60周年おめでとうございます。

私が先ず思い出されることは、市制記念支所訪問駅伝に出場したことです。北谷の北六呂師から野向町の薬師神谷大橋までが自分の区間でした。当時は16歳で勝山高校の1年生でした。たすきの中継点では、薬師神谷地区の皆さんが大勢で応援していただいたことを、大変懐かしく思い出しました。

その2年後、18歳の春に卒業と同時に東京へ。あれから今年で58年目を迎えましたが、「少年老い易く学成り難し」とは誠にそのとおりで感じています。自分が何とか曲がりなりに今日まで来れたのは、ふるさと勝山とご先祖のおかげだと感謝の気持ちでいっぱいです。誠にありがたいことだと思います。

また、東京勝山会も昨年一足早く60周年記念総会を11月11日に行い、山岸市長にもご出席いただいて盛大に祝うことができました。本年は10月18日正午より61回目の総会を開きますので、多くの方にぜひ参加いただけるようよろしくお祈りします。(会場は銀座ライオン6階クラシックホール)

結びになりますが、ふるさと勝山が益々ご発展されますようご祈念申し上げます。



関西勝山会会長
近藤 義親氏

市制施行60周年おめでとうございます。私は北郷町の出身で、我が家の玄関を出ると「鷲ヶ岳」が迫ってくる。この山が私に多大な精神的忍耐力を育ててくれました。

私は読売新聞社に入社。働きながら大学に通い、卒業後は県の販売担当員として地元紙や全国紙と熾烈な“増紙”戦を展開し、松竹芸能社等とイベントを積極的に企画し部数を大きく伸ばすことができました。

いまの勝山には、恐竜博物館、越前大仏、勝山城博物館、ゆめおれ勝山などがあり、施設は相当整備されています。私は、これからの勝山はもっと観光に力を注ぐべきだと感じました。それには先ず「宣伝力」と積極性が第一です。例えば、福井県が開発した「コシヒカリ」、福井県が提唱した「ふるさと納税」の特典などに、工夫が欲しいものです。

「ふるさと納税」は毎年行っていますが、今年は地元の要望に応え、鷲ヶ岳に桜の樹を植えてもらい、将来老若男女の親睦の場になればと思います。

最後に、第88回関西勝山会総会には山岸市長を迎えて、初の「勝山物産展」を開催し、勝山市をアピールする予定です。

勝山市民の皆様の益々のご健勝を祈念いたします。

勝山市の曙

過去から現在そして未来へ



勝山市役所開庁式
(昭和29年9月1日)

平成26年9月1日をもって勝山市は市制60周年、人生でいえば還暦の年を迎えることになりました。そこで過去をさかのぼって勝山の姿を見ていきたいと思えます。昭和29年(1954)に大野郡に2つの市が成立します。大野・下庄の2町と7村が合併し人口約43,500人の大野市と、勝山町と8村が合併し人口約39,000人の勝山市です。明治21年に「市制町村制」が公布され1町9村(猪野瀬村は昭和6年に勝山町に合併)が成立したのは翌22年で西暦1889年です。市制60周年を迎えた平成26年は2014年で、明治の合併を起点に考えると勝山市制施行の前と後でほぼ同じ年月が経過したことになります。

中世から江戸時代

12世紀の中頃から平泉寺が大きな力を持つようになり、九頭竜川沿いにその勢力を拡大していきます。15・16世紀の交に、大野郡は九頭竜川と真名川が合流する下荒井のあたりを境に、現在の大野市域を中心に南袋、私たちが住むこの勝山市域を中心に北袋と

呼ばれるようになります。南袋はそれほど一般的ではありませんが、北袋という呼び方は江戸時代を通じて使われていきます。例えば九頭竜川右岸の村々の慶長3年(1598)の大岡検地帳には、「越前国北袋内(毛屋)村」などと記されています。

明治から昭和

明治時代に入ると勝山地区は北袋に変わって大野郡北部という言い方が一般的になります。それに対し大野地区は郡南部と呼ばれ、しかも明治11年大野町に郡役所が置かれたことで郡の中心としての地位を確立します。以後両地区はことあることに対立し北部では分郡運動さえ起りました。しかしこうした逆境をバネに勝山地区はタバコ・製糸、そして機業を発展させてきました。一方で昭和10年代には大野・勝山両地域を奥越と呼ぶ言葉も生まれました。昭和の町村合併により両市が成立したのは、上記のような経緯を踏まえると必然であったのかもしれませんが。

昭和の合併、その経緯

平成の大合併では2004年にあわら市が、2006年には坂井市が誕生しました。昭和の町村合併は昭和28年の町村合併促進法により進められ、大野郡北部の県合併試案は勝山町外5ヶ村(村岡・遅羽・平泉寺・野向・北谷)と、3ヶ村(荒土・北郷・鹿谷)の2ブロックとするものでした。そのため最初のうちは両ブロック独自の話し合いが行われていました。ところが、その後しばらくして市の設置基準が3万に緩和されることになりました。しかし5万に改正される前に市制決議をしないと永遠にその機会は訪れません。ところが1町5ヶ村ブロックの人口は21,918人で、両ブロックが大同団結しない限り、第1条件がクリアできません。こうして市制実現に向けて両ブロックの間で、29年1月以降真剣な激論が幾度も交わされることになったのです。合併の利益として財政力の強化、行政経費の節約と事務処理の効率化、税金の効率的な使用、人材登用などがあげられました。



神明神社での廃町村式(昭和29年8月31日)

一方、合併を否定する要因としては、人情風俗の相違・愛郷心喪失への不安、財産の不均衡、役場など公的機関への距離的不安感などがありました。当初の試案による話し合いがかなり進んでいたことや、ブロック間の不信感など数々の問題はありました。最終的に市制を実現することができました。その大きな原動力となったのが若者(青年団)と女性(婦人会)が示した行動力でした。

住民アンケート結果から

9月1日、勝山市が成立することになりましたが、7月

- 15日付け「町の新聞」第164号に「大勝山市に望む」としてアンケートが掲載されています。その中から青年団、保健所所長、商工会議所局長などの声を要約して紹介します。
- 1、機業家の団結で織物研究所を作り、時代感覚にマッチした織物を創作し不況を乗り切る
- 2、長山公園をグラウンド併設の公園とし、市民が気軽に利用できるようにする
- 3、市内バスの運行により相互に地域間の交流をはかる
- 4、婦人青年会館を建設する
- 5、伝染病を防ぐため上下水道を完備させ市民の健康を守る
- 6、働く婦人のために市民食堂を設け、また母親の健康を守り、婦人の労働力向上のため乳児保育所を建設する
- 7、市民の声を聞いて教育環境を整え生きた教育を行い教養ある人間を育成する
- 8、社会福祉事業を一層充実させる
- 9、市内における放射線・環境整備を行い、福井・金沢方面への産業道路を建設

勝山の将来を考える

10、田園都市としての魅力に加えて白山にかかわる伝統文化と、観光資源を生かし山岳都市を目指す

以上のように集約できます。今日すでに実現されているものがある一方で、まだ実現を見ていないものもあります。これまでの市の発展を祝いつつ、これらの意見も参考にしながら改めて勝山という地域を振り返り、市民一人一人が未来の勝山市のあるべき姿を考えていただけたらと思います。

(文責 勝山市史編さん室 山田雄造)

表1 勝山市の人口推移

年	人口
明治5年(1872)	28,777人
昭和15年(1940)	31,404人
昭和30年(1955)	37,554人
平成26年(2014)	25,132人

注) 平成26年の人口は4月1日現在

表3 昭和30年の市制祝賀行事の日程と内容

実施期日	内容
4月27日	市制祝賀・校舎落成記念 勝山中学校学芸会
4月28日	特別行事 物故自治功労者慰霊祭 戦没者慰霊祭 前夜祭 宝生流謡曲大会
4月29日	市制祝賀記念式典 琴・尺八・日本舞踊大会 祝賀旗行列・祝賀提灯行列・花火打揚大会
4月30日	支所訪問駅伝 カーニバル大会(機動・徒歩) のど自慢素人演芸 名士隠芸大会
5月1日	花菱アチャコ劇団公演 浪曲と万歳

※背景写真は、勝山市役所開庁式での万歳三唱の様子(昭和29年9月1日)

「歩み」

勝山市この10年

市制50周年〜60周年

平成16年 (2004年)

- 2月 関西学院大学ワンダーフォーゲル部大長山遭難事故から14人全員救出
- 6月 遅羽児童館開設
- 7月 福井豪雨
- 10月 スポレク福井2004開催



平成17年 (2005年)

- 5月 福祉健康センター「すこやか」完成
- 7月 「大清水広場」完成
- 10月 第1回恐竜クロカンマラソン開催
- 12月 18豪雪で21年ぶり「雪害対策室」設置

平成18年 (2006年)

- 4月 ごみの中間処理施設「ビュークリーンおくえつ」稼働
- 8月 勝山高校男子バドミントン部、兵庫国体で準優勝
- 11月 劇団「ドラゴン・ファミリー」旗揚げ公演
- 11月 「平泉寺「旧玄成院」「越前禅定道」を世界遺産暫定リストへ登録申請
- 11月 旧木下機業場を市指定文化財に登録



曳き家イベント

平成19年 (2007年)

- 4月 アメリカ経済誌「フォーブス」電子版「世界のクリーンな都市ランキング」において9位にランクイン
- 4月 北谷町で国内初の恐竜皮膚痕化石を確認
- 5月 平泉寺で14世紀頃の中国製白磁観音像が出土
- 7月 勝山市旧機業場の歴史的曳き家イベント開催
- 11月 勝山市旧機業場、松文産業女子寮などが近代化産業遺産として経済産業省に認定

平成20年 (2008年)

- 2月 勝山左義長が福井県指定無形文化財に指定
- 4月 勝山市地域職業相談室「マイワークかつやま」創設
- 4月 福井県立大学看護福祉部と連携合意
- 6月 浄土寺川ダム完成
- 10月 恐竜ラッピングバス運行開始



平成21年 (2009年)

- 3月 中部縦貫自動車道「勝山―上志比間」供用開始
- 6月 関西学院大学と包括的連携協力協定を締結
- 7月 はたや記念館ゆめおーれ勝山オープン
- 7月 平泉寺「西蓮院」跡で石畳道発見
- 8月 デジタル防災行政無線開局
- 10月 「恐竜深谷ふくい勝山ジオパーク」が日本ジオパークに認定



平成22年 (2010年)

- 1月 山口茜さんが全国小学生バド選手権大会で、史上初の4連覇を達成
- 3月 国史跡・白山平泉寺旧境内で数珠製作用の砥石と水晶片を発見
- 3月 かつやまふるさと検定を実施
- 4月 「旧木下家住宅」が国の重要文化財に指定
- 7月 福井県立恐竜博物館開館10周年



平成23年 (2011年)

- 2月 宇田杉人さんがワロカンスキーの全国中学生大会とジュニアオリンピックカップそれぞれで優勝
- 3月 東日本大震災被災地への独自支援（消防緊急援助隊派遣、福祉避難所開設）を実施



- 8月 「深谷家住宅洋館」「料亭板基蔵座敷」「旧料亭花月楼」が国の登録文化財に指定
- 11月 えちぜん鉄道勝山駅の周辺整備が完成
- 12月 平成30年福井国体のバドミントン競技開催地が勝山市で決定

平成24年 (2012年)

- 4月 原付バイク用恐竜ナンバープレートを交付
- 4月 「勝ち山おろしそば」ブランド化へ。中尾彬・池波志乃夫妻を「勝ち山おろしそば」観光特任大使「委嘱」
- 5月 第20回環境自治体会議「かつやま会議」開催
- 8月 山口茜さん全国中学生バドミントン大会優勝
- 9月 活性交流センター「野向風の郷」完成
- 10月 白山平泉寺歴史探遊館「まほろば」が完成
- 10月 山口茜さん世界ジュニア選手権で銀メダル



平成25年 (2013年)

- 3月 中部縦貫自動車道「勝山―大野間」供用開始
- 4月 新体育館敷地造成工事開始
- 7月 国史跡白山平泉寺旧境内に「柿葺の薬医門」と「築地塀」が完成
- 8月 勝山初の夏フェス「ダイノニック」、まちなかストリートフェスを開催
- 9月 山口茜さん「ヨネックス・オープン・ジャパン2013」で日本人初・最年少優勝
- 10月 勝山左義長まつり実行委員会が地域伝統芸能大賞を受賞
- 10月 勝山駅舎の改修等が完成

